

特別
14
2090
(37)

Y. H. & Co



アム

21

三ノ小



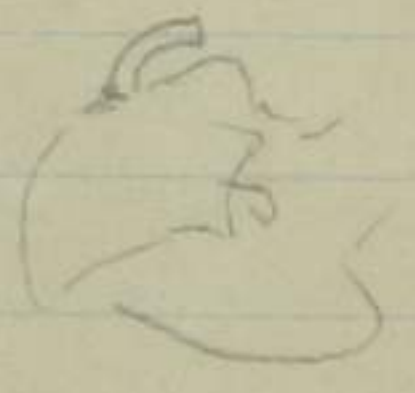
眼鏡 共五二

巾着、袋、巾着

袖布 共、袋の二色

飾紐 共

系佩



白^{白ニモウ}輪毛の長形の頭壳

銀モールの付いた巾着袋

眼鏡のサリク

ハグニ+色の中抜帽

旭日章の一色帽に、其の
神皇正統記を金銀の二部

共いし破糸の厨子の眼

飾紐之^{ハグニ}
巾着



林
歌
の三本
歌

何のガ
〇〇〇〇

急
〇〇〇〇

〇〇〇〇
〇〇〇〇

下
下
〇〇〇〇

小

〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇

〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇

〇〇〇〇
〇〇〇〇

仲士の記完

格天井

石橋の巻

星はの斗載子

載の記

鳴門家種

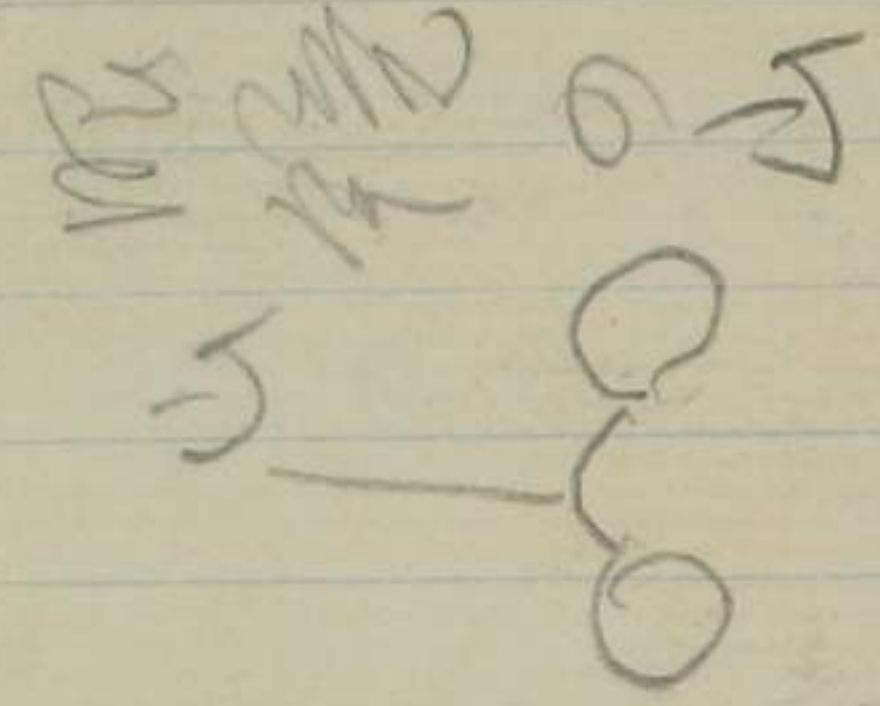
蛇島先の記

はらの行ヤ、
始

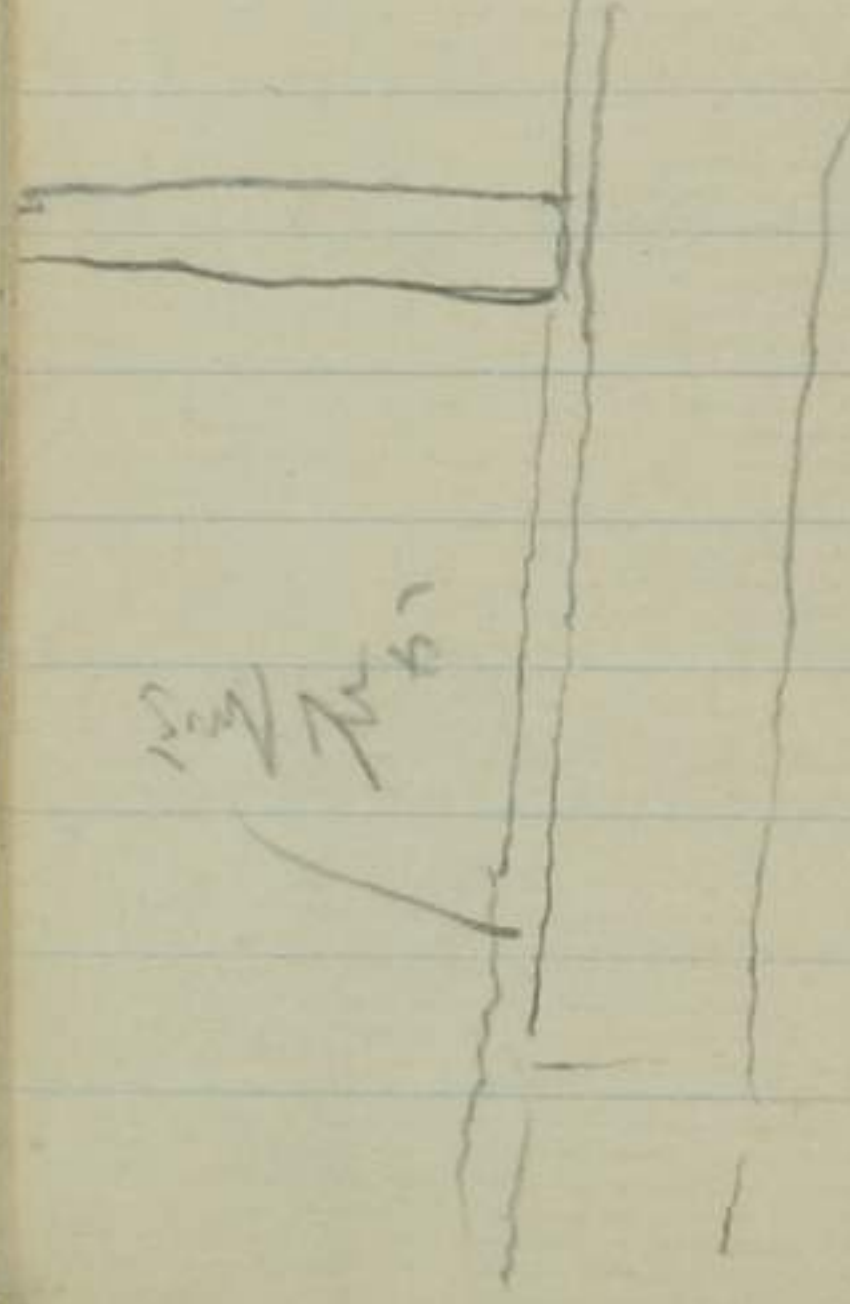
下(女の巻)

記の記

記の記



0
 111111-101111



芝草
 之新文化の源泉
 9-

絨毯の靴

petite ouverte

Korabka

Yskaps Yskaps 薬出物
officinalis

Mappeu - Salvia 或

Herpes 云

Ypqa 或

Decoxit 煎汁 科

Dorrek 子

Momonapb 云

Nornay namap

Jaengajell

Repenyca
Prunus padus

エリ"ワハミ"ツ"サ"ク"ラ

Centaurea nigra (菊64?)

Gryhroea centaurium ?

(Horse-knop.)

White-heart-cherry ?

Prunus 科 (嘉果科)
Prunus cerasus (common garden cherry)

Pyrus communis

セイヤウ+シ

Achillea Millefolium (レペニ)

西洋金銀字

Satureia hortensis
(Savory) (T₂ 72 84)
キクハリカ

Hazel-nut
S. Haeselh nntu

Dianthus deltoides (2442)
77" 23 ? ~~2442~~ ?

Handwritten notes in Japanese characters, possibly related to the plant's name or origin.

Hazel-copse ?
Hazel-bush ?
(Opuntia) ?
榛栂ノ根

Handwritten notes in Japanese characters, possibly related to the plant's name or origin.

Lappa (penenurus) 42
Lappa-major 4 42

Handwritten notes in Japanese characters, possibly related to the plant's name or origin.

Handwritten notes in Japanese characters, possibly related to the plant's name or origin.

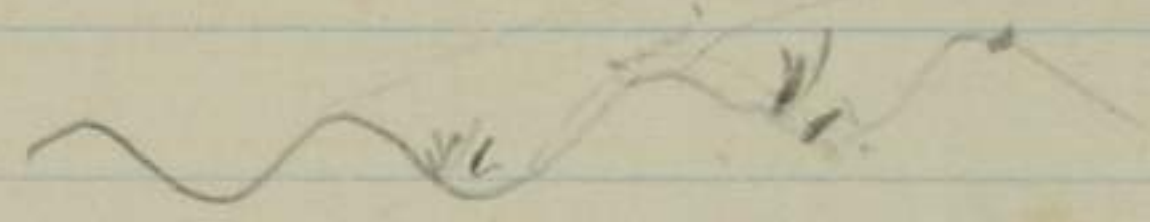
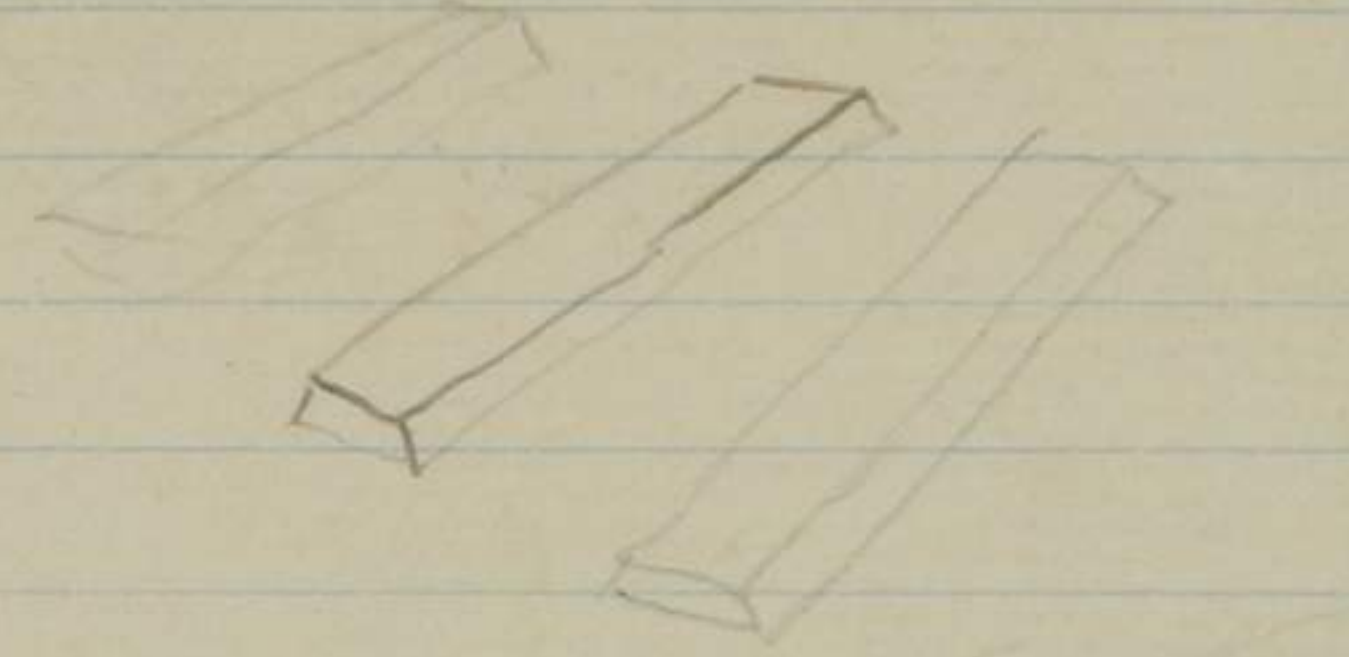
Handwritten notes in Japanese characters, possibly related to the plant's name or origin.

田三井園村林院

田木園

空房

三井川の静電



花の家柳

花の家柳
田

田
静電

55

catch	caught
取込	取込

hickory

hickory

hickory

hickory

17th

of 232
of 10
7044

13

9

10

11

12

13

14

15

16

17

hickory

豊稔業

苗床

苗の移植

上にのみある部分

同じ位の根がある

根が、毎むと

長枝根が太く、

短一時的に付着

水分や養分を供給

からよ、成長、

徒長、毎つぎに

徒長、毎つぎに

ふやうりよとみ

ち、根が切れる

成長、小、時期

長所 徒長を防ぐ

田のよき充實

ある

短所 根を痛める

から養分

分を吸

たき

成長を妨げる

備し

一 お水をやる

二 茎散作用を弱くする

三 水に石灰を

加える

木葉を

注意

一 時期 雨天の翌日

から

夕方に

曇りの時 曇天

の

雨中には

あまり

根の發育を

温度を

必要とする

聖母にささぐ

マリアも母にささぐ

光にささぐ

光のひびき

聖母マリア

御子にささぐ

今我理相

ともし

光

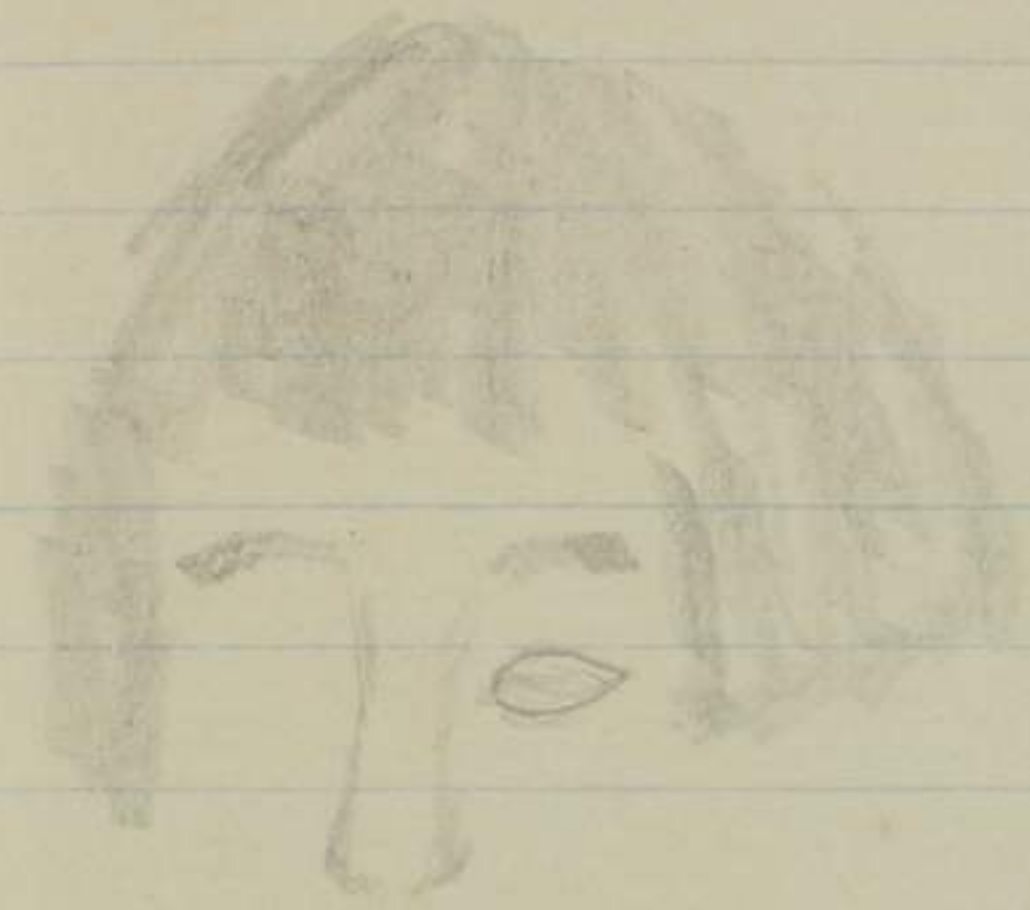
53

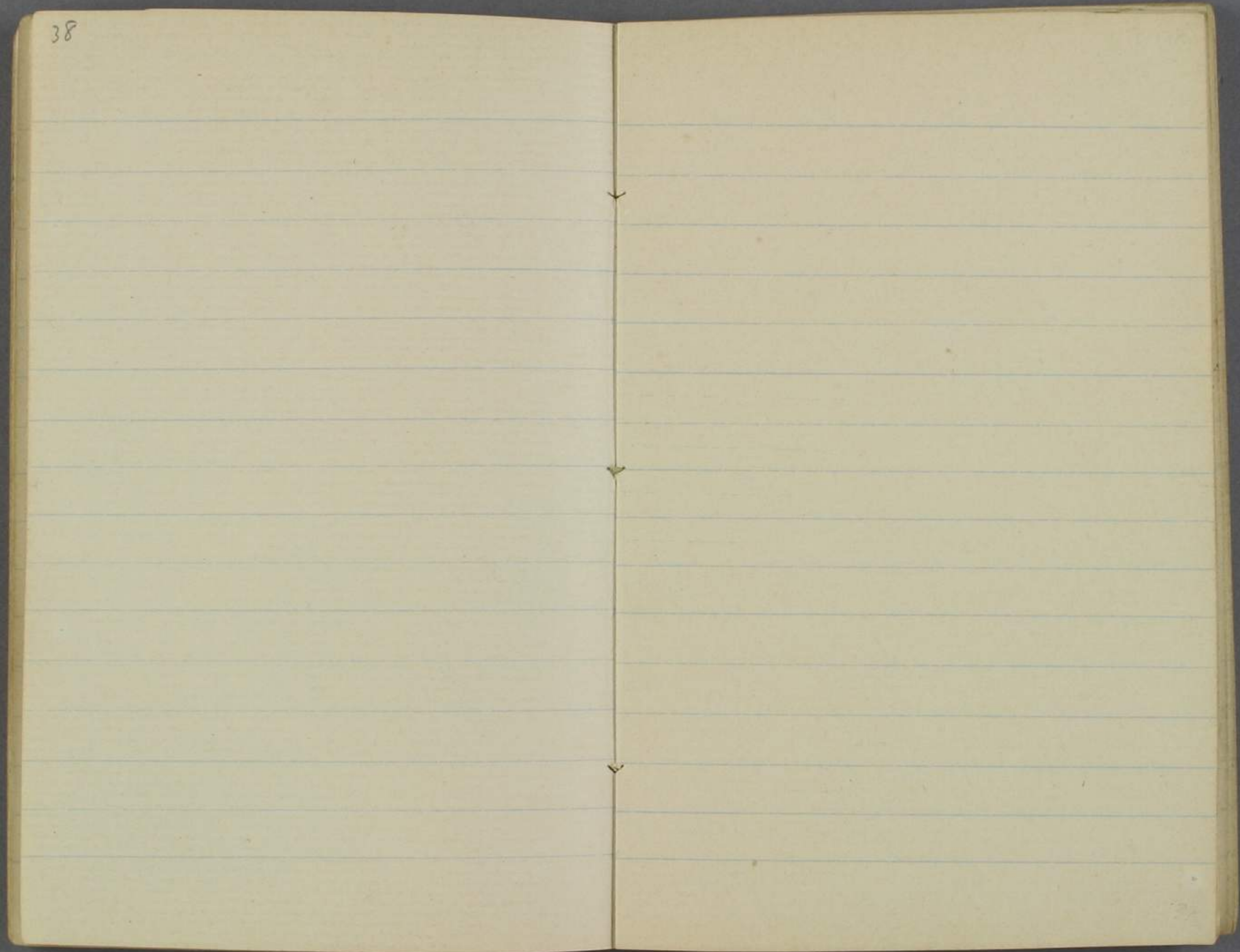
11
洗
27

以下

13 丁

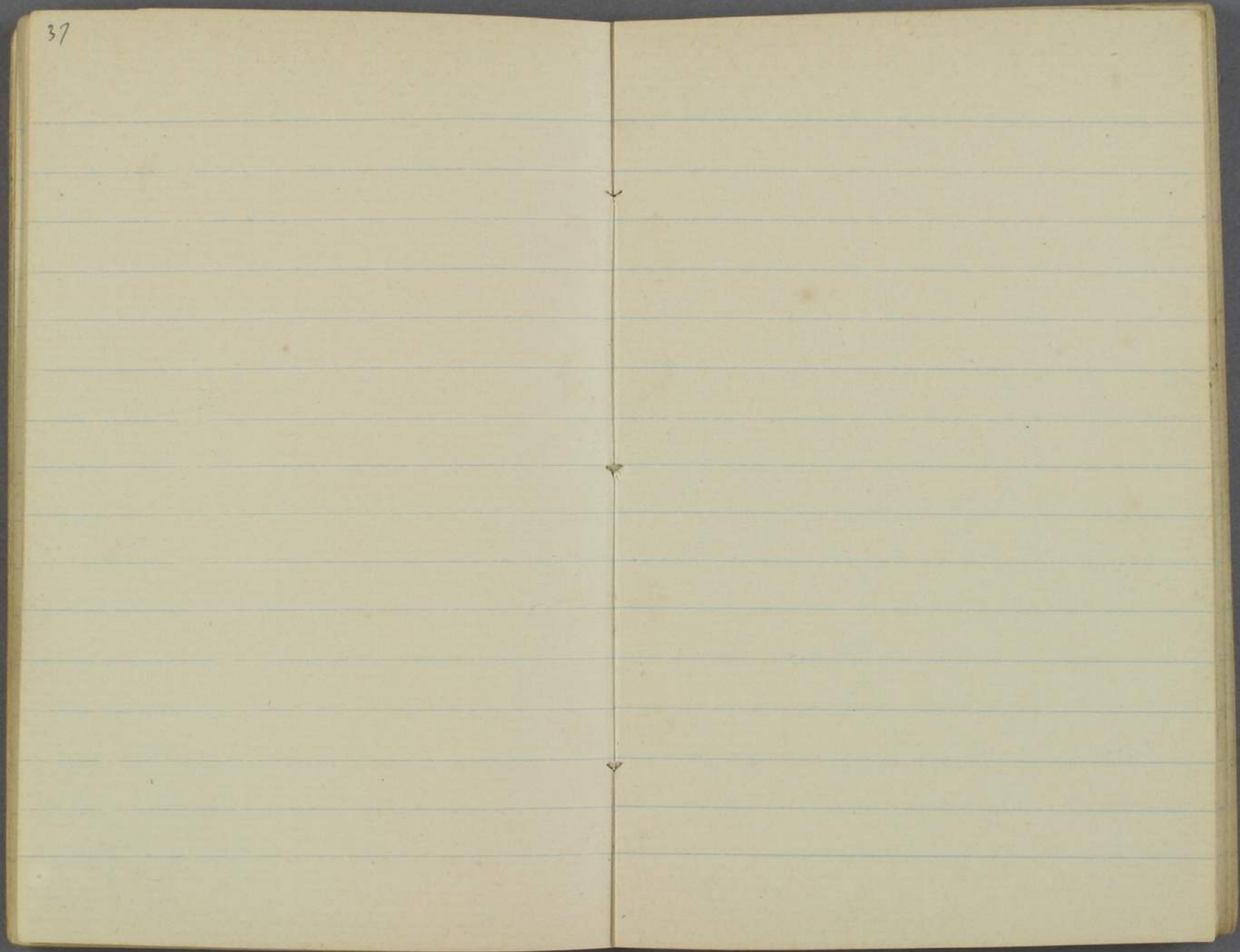
白紙





38

37



折り紙の式

お刺古相

明日は被服

平常着

とよあらしや扱

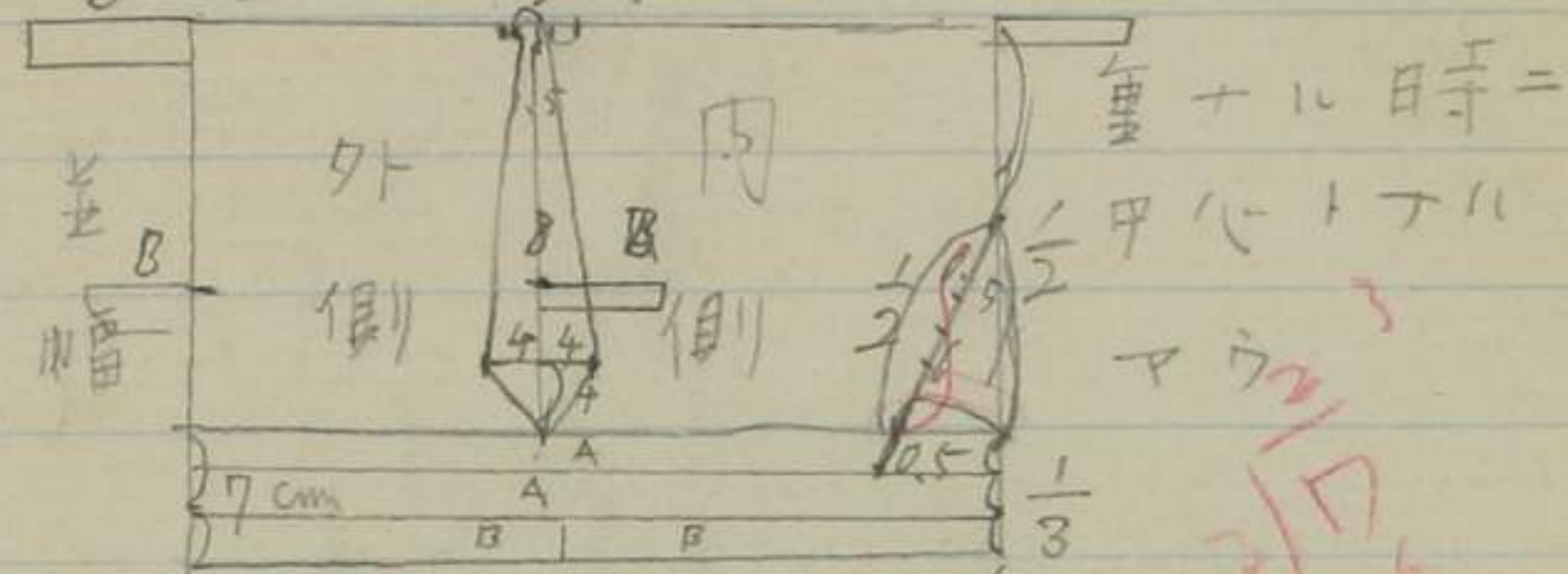
張や何の玉さるのみ

おあらし

型紙

脚絆

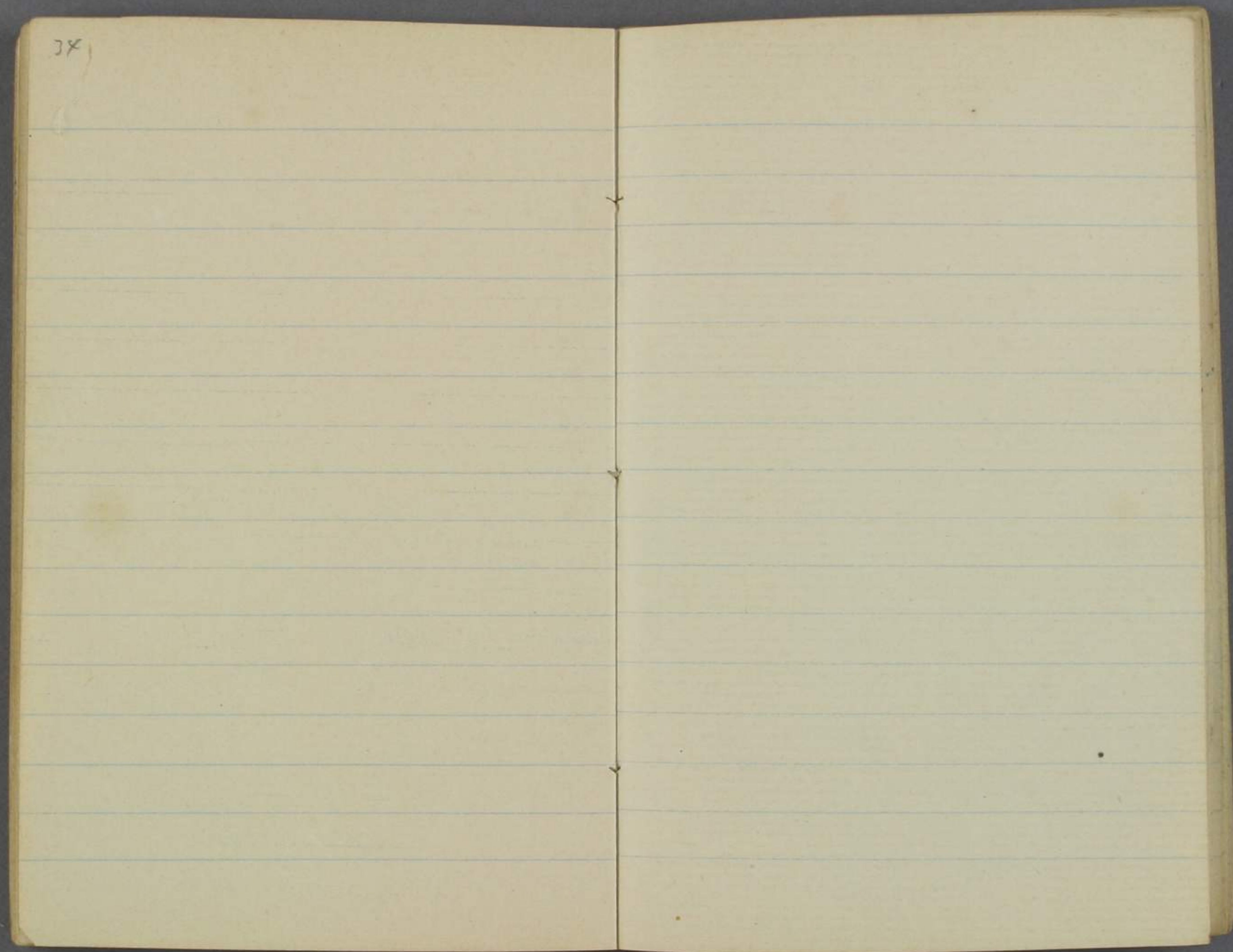
A型紙 紙0.5



この廻りに2枚

18
2/3
3.0
1.7
3.5
1.1

Handwritten red calculations and notes, including numbers like 1.8, 3.6, 1.9, 2.9, and 2.6.



38

3. 行政の制度
 特に法律の及ぶ
 都市の商業
 建設の中心地
 各地に及ぶ
 5. 道路水運の
 建築の中心地

3. キーワード

1. 神和や傳説の内容

2. なる敘事詩の早

3. 起る

2. 次は抒情詩劇

詩の詩の詩

3. 更に口上と家

1. 頭出しと史の

4. 王の

4. 文政治の公議

1. 文政治の公議

2. 文政治の公議

3. 文政治の公議

4. 文政治の公議

5. 文政治の公議

6. 文政治の公議

神象と神殿の造り、入りに

神殿はりの調和的構

美名高

5. キーワード

4. 次は抒情詩劇

詩の詩の詩

3. 更に口上と家

1. 頭出しと史の

4. 王の

4. 文政治の公議

1. 文政治の公議

2. 文政治の公議

3. 文政治の公議

4. 文政治の公議

5. 文政治の公議

6. 文政治の公議

3. 其の環境下の（ニヤと長
 同戦ふ（ニヤ人の侵
 入の力一ニ下り
 4. 1870年帝國の東西
 二分裂（西半は帝國
 は小の雄略天皇の御
 代に於て東ニ一帝
 國の今に於ける
 三）ニヤ人の文化
 ①）ニヤ人の精神文化非
 常ニ發達後のヨロシ
 文化の母胎ナリ
 ②）おのちの時代には
 極盛時代には下り不
 の中心に在り

③）ニヤ人の思想
 1. ニヤ人は古く神話
 入りの宗教の力の後
 又とて十二神の信
 仰の個々ニヤ人の神話
 の形成ナリ
 2. 其の人は如大宇
 宙の根源を究む
 1. 此の人の同様な
 のは印度國ニ在り
 3. 人と神と國家の關係
 3. 老クへる
 4. 文明化する如ク（文明）
 下りテ下りテ可
 有名なる巧學者
 お現る

5. 17世紀の政治と軍需
上 社会改革の行な
反對派に教示

三帝政の盛時

① 17世紀の養子不クク

又又父の志を以て反

新者うちエウラに征服

17アウクス(尊)四敵

省の海軍編るにけぬ

2. 1717 共和制は名

たりと下るにせしむる

以後皇帝政時代

3. 17世紀三百年間の

外 共和と文作の著

及一口は日取十

成王大時斯るもの

1717 人々 世界統治

国家 不滅の思想

雜詩

(四) 1717 無上

1. 1717 成務天皇の御代

1717 には暗愚

君はさる續多

2. 軍隊は無知命令欲

勝手は自皇帝の榮

行の財政は必多

物價は上り国民は

義勇奉ふの念は

文は昔(人口は多

に滅す

④ 其の^ルが^ルに^ハ五
 三ヶ^ノ植民地^ハマカ^クあ
 り^テ西^ノ中^ノ海^ニ勢^ヲ伸^ベス^ル也

⑤ ロ^マニ^テカ^バタ^ク
 三回^ニカ^ル戦^ハス

開化天皇の御代
 ロ^マニ^テハ^カバ^タク^ス事^ナリ

⑥ ホ^ムニ^ノ戦^役
 二^回和^制の^末路^ニ至^ル

⑦ ホ^ムニ^ノ戦^役の^後ロ^マ
 植民地^ノ増^シ非^ズ

⑧ ヲ^ノ結果^本國^ノロ^マに
 駐^ル兵^隊の^集り^テ奮^戦す

① 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

② 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

③ 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

④ 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

⑤ 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

⑥ 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

⑦ 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

⑧ 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

⑨ 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

⑩ 現^在小^同志^ニ結^ス
 ぶ^ル政^權ヲ^得得^ル

ベロ干ネリス 戦後
ペルシア王のオス
4) アケメニヤ アケメニヤの王

① アケメニヤの王 アケメニヤは
ペルシアとペルシアを征服
短日月の中に東はインド

② 国境西はギリシアに及び
廣大小土地を領し、
ペルシア文化はアケメニヤ

③ ①の灰後 三百年間 地中海沿岸のアシヤ東部に
普及し、一文化を以て

④ 東洋、西洋、の隔合
をはさむ

3) エリクトの アケメニヤ

當時の文化の中心地

ニローヤ

① アケメニヤの興起

② 古代のイタリヤ半島は

種々の民族の割拠し

を多

③ ①の自王 天白王の御

代ローマ人のイタリヤ

島を征服

④ ①のローマは貴族と平民と

の争の激しさを

その法澤に政治に平

等して共和政治の興

を多

西洋史

1) エーゲ文明
- フィリヤ

① 西洋史の第一志

エーゲ海上面

② 約四千年前 クレテ島

に有カ下王出現

制海權の西朝握

③ その後 (五百年) のち

その文化 フィリヤに美

及

(2) 都市国家の成立

① フィリヤは部族に依

りておもしろいと多々

へ都市国家を成立せり

2. 戦の神武天皇のナニシ制

あるフィリヤ人け地甲海沿岸

各地に植民

3 都市国家の中心をナニ

とスバハタ

ペルシヤ戦役

聖朝者降拜目

1 ペルシヤの領土を占めたり

2. ペルシヤはフィリヤと戦つて結

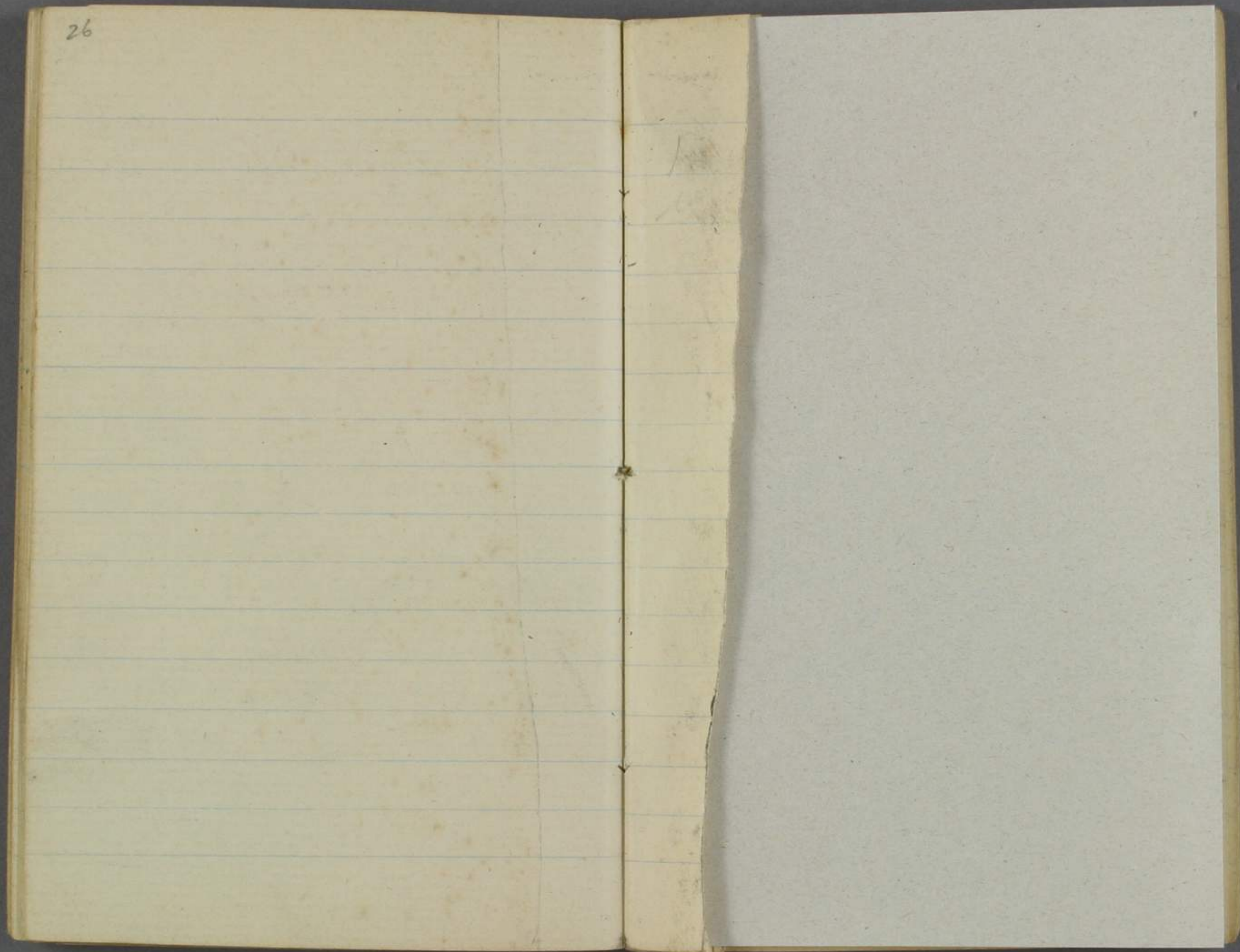
果キリシヤのち下をけ

甚興全時代を迎ふ

ペルシヤ戦役

③ 下をけ 至るや人もスバハ

タは下をけ降し



tice

ティクス

sho

ショウ

bon

ボン

a trots,

トリョツ

rights a

テ

テ

with

ワキス

with

ワキス

ine who

シ

ウエ

lood the

ト

サ

uace s

ス

シ

ce a

ス

ア

rate fu
レト フル

re re
リ リ

let us
レト アス

er ty
レ ラ

pea
レ

12

12

bia hap
ヒア

ee hea
エ

d blea
ド

ht and
ヒト

use and
ユズ

jo
ジョ

et in
エト

r m
エ

Hall

Hall

Hall

band

enhs

To see

Aluc wa
71153 72

Nov
72

nd
d ed
27-1

le,
714
star,
245

甲午一月廿三日

御降や事始の途

海りかや

424
224
2

二
一
系
印
水
在
二
子
子
如
子

其
面
第

一
二
三
四
五

一
二
三
四
五

小
 辰
 同
 り
 そ
 ち
 へ
 他
 と
 鐘
 の
 音
 が

武
 義
 防
 の
 鉄
 扇
 押
 の
 子
 三
 重
 の
 音

酒花の白
 新川
 夏夜

行水と
 虫引
 中
 如
 山

九
の
記
白
の
記

白
の
記

白
の
記

白
の
記

申
如
如

申
如
如

言
大
言
の
記

行
微
不
知

子
院
の

1月 1日
 2月 1日
 3月 1日
 4月 1日
 5月 1日
 6月 1日
 7月 1日
 8月 1日
 9月 1日
 10月 1日
 11月 1日
 12月 1日

1月 1日
 2月 1日
 3月 1日
 4月 1日
 5月 1日
 6月 1日
 7月 1日
 8月 1日
 9月 1日
 10月 1日
 11月 1日
 12月 1日

〜の果

物

伊達

人

九

皮

~~~~~

夫

婦

子

女

子

孫

子

孫

子

孫

子

孫

子

二人 <sup>葡萄</sup> ~~八~~ <sup>かん</sup> ~~ち~~ <sup>ち</sup> ~~ん~~ <sup>は</sup> ~~ら~~ <sup>う</sup>

原の川

<sup>ひ</sup> <sup>ほ</sup> <sup>の</sup> <sup>ゆ</sup>   
 麦 ~~三~~ ~~草~~ ~~花~~ ~~や~~ <sup>暗</sup> <sup>き</sup> <sup>ま</sup> <sup>は</sup> <sup>は</sup>

<sup>こ</sup> <sup>の</sup> <sup>ゆ</sup> <sup>と</sup> <sup>い</sup> <sup>は</sup> <sup>な</sup> <sup>は</sup>   
 鴨子

お水や <sup>涼</sup> <sup>衣</sup> <sup>裳</sup> <sup>け</sup> <sup>し</sup> <sup>て</sup>   
 白 <sup>い</sup> <sup>い</sup> <sup>と</sup> <sup>り</sup> <sup>の</sup>

<sup>一</sup> <sup>巾</sup> <sup>半</sup> <sup>や</sup> <sup>り</sup> <sup>お</sup> <sup>の</sup> <sup>子</sup> <sup>猫</sup> <sup>草</sup> <sup>子</sup>

<sup>五</sup> <sup>を</sup> <sup>投</sup> <sup>げ</sup> <sup>て</sup> <sup>泳</sup> <sup>ぐ</sup> <sup>一</sup> <sup>け</sup> <sup>り</sup>   
 <sup>り</sup> <sup>の</sup> <sup>者</sup> <sup>殿</sup>

<sup>一</sup> <sup>巾</sup> <sup>半</sup> <sup>は</sup> <sup>あ</sup> <sup>の</sup> <sup>ら</sup> <sup>の</sup> <sup>や</sup> <sup>ら</sup> <sup>り</sup> <sup>お</sup>

公食を在二三流や  
市の人

昔誇らぬ

巴里の昔の誇り

命座  
勝子 夜校の  
おなりのけり

代わりや  
来ぬと  
な

保崎くや 彼の  
おぼけの

↑ かなの 夫婦  
のけり

きり  
車

きりきりす  
事車と

おぼけ  
と

くれのこゝろ  
 夜の前  
 門  
 涼  
 とい  
 へ  
 人  
 待  
 女  
 子

夏  
 の  
 月  
 夜  
 の  
 音  
 子  
 の  
 心  
 人  
 心  
 かく  
 かく



狩野新の子らと  
人々

象の  
後  
の汗  
志し

山  
の  
神  
の  
為  
と

打  
破  
敵

ト  
三  
白

お  
ら  
う  
女  
身  
の  
女  
身

か  
り

〜

人  
と  
て  
な  
り  
ま  
り  
の  
月

五  
六  
人

⑤  
五  
六  
人  
州  
と  
さ  
り  
く

五  
六  
の  
月

五  
六  
の  
月

水  
の  
志  
り  
く  
せ  
り

子の三折からと  
 又その山を  
 くつれても  
 折々の山を  
 折々の山を  
 折々の山を

子の三折からと  
 又その山を  
 折々の山を  
 折々の山を  
 折々の山を

檀子隠に待たぬ人あは

出家人おきて

岐子持坪のうらと

すかせとも人の住とあぬ

こころかな

夕涼シカ一の畑とあかぬ

大木にこれよーとこのと

あは

日 笑 あれば  
鳥 鳴き せん ころし

晴 中 ころし には 乾 ぶ せ ず 涼  
ひ り め ぐ ち ず ず  
くれ の こ ころ 夕 思 棚 や  
ひ め ぐ ち ず ず

夕 浦 原 市 中 色 止 研 見  
す かり みる ば ぞ ぞ や

夏 世 市 籠 宿 御 と 欲 せ 日  
涼 し ぬ  
夏 世 市 の 十 五 八 九

燈  
二  
火

か  
ふ  
あ  
こ  
し

を  
ふ  
か  
か  
ふ  
女  
の  
ま  
り

千  
あ  
ぬ  
ほ  
あ  
の  
り  
や

い  
ろ  
め  
の  
者

甘  
園  
燈  
燭  
城  
し  
ま  
ら  
う  
め  
を  
ん

陣  
の  
女  
末  
と  
宿  
を  
す

大のまの丸うまこ

お干子

~~お干子~~

白き湯衣や

石の月祀

お干子の祀

川伝祀

りかめーきん冠木門あり

月葡萄棚まかしん

清外又團三郎

月

くらし

そこらに團三郎の吟

吟う人

百日紅





言  
請

木  
坊  
を

た  
ら  
の  
水  
た  
く  
ま  
り  
や

は

隠  
望

の  
や

隠  
の  
腰

經  
 終  
 と  
 終  
 終  
 終  
 終  
 終  
 終  
 終

下  
 下  
 下  
 下  
 下  
 下  
 下  
 下  
 下  
 下

及  
 の  
 及  
 と  
 一  
 是  
 初  
 の

其  
 い  
 か  
 と  
 同  
 ら  
 ぬ

初一卷

第 一 卷

第 二 卷

第 三 卷

第 四 卷

第 五 卷

第 六 卷

陰の標本

うしは花

流本

いふ本

いふ本

いかに木

陰の柄木

目遣の物

心中心

草神草

蚊蚊蚊

いかに子

多帳子

袖丸帳

生す

いかに子

いかに子

量珠沙草

いかに子

いかに子

いかに子

いかに子



かきつばたの地甘きおの梅記  
かきつばたの地甘きおの梅記

歌

~~かきつばたの地甘きおの梅記~~

すまのたの焚火細くおの梅記  
すまのたの焚火細くおの梅記

かきつばた

